

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271400980		
法人名	社会福祉法人 南有会		
事業所名	グループホーム望		
所在地	長崎県南島原市南有馬町丁306-1		
自己評価作成日	令和元年 6月 20日	評価結果市町村受理日	令和元年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和元年8月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気過ごしてもらえる様力を入れている。又、本人のやりたい事が実現できる様努めている</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>島原半島の南東部に位置し、有明海を挟んで天草地域に面する土地にグループホーム望は事業所を移転してから13年目を迎えた。ホーム周辺は農業や漁業が営まれ、作物によって季節の移ろいや虫の鳴き声などを身近に感じられる住環境にある。地域からの入居に繋がる入居者も多く、ホームと家族、また地域からの理解を得ながら家庭的な雰囲気を大事にした支援に取り組んでいる。管理者や職員の丁寧な関わりが家族や地域の信頼に繋がり、今ではホームが地域の介護拠点としての役割を担う存在となっている。5年前の管理者の交代に伴い、ホームは勤務体制の見直しや職員のスキルアップに取り組み、ホームの課題に真摯に向き合い改善に向けた働き掛けを行った。入居者の重度化に伴い、医療的な知識が必要となってきたが、職員は入居者の状態を理解し、家族との関わりを深めながら支援の充実を図っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム望

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を目につく所に貼って共有できるようにしている。又、実践につなげている。	共用空間や玄関など誰もが目に付く場所に理念を掲示し、職員はいつでも確認して実践に繋げている。今回、新入職員業務マニュアルの表紙に理念を掲げてホームの方向性を示し、理念の浸透が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流が日々の生活の中にある。ホームの中で行う敬老会へも声掛けして参加してもらっている	ホームでは日頃の挨拶を通して地域と顔が見える関係づくりに努めており、地域からのホームへの理解が図られている。今では地域行事へのお誘いや身近な存在として距離感が縮まり、交流の広がりを見せている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話で相談があれば、電話で対応している。訪問があればホーム内で話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で日常の様子を報告をしている。その中でアドバイスを受け、サービス向上に役立てている	運営推進会議には自治会長や家族など多数の参加があり、管理者から入居者の日頃の様子や支援の方向性について示し理解を促している。会議ではホーム運営や地域の情報を交換するなど参加者の忌憚のない意見交換の場として機能しており、ホーム運営の透明性が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事や疑問に思った事は、アドバイスをを受けたり、協力関係を築く様努力している	運営推進会議に広域市町村圏組合担当者が出席し、保険者がグループホームに求めることを積極的に示してもらうことでホームの支援の方向性の確認ができた。管理者は当該担当者からの意見をもとに今後を見据えた運営に繋げ、介護保険の改訂に関する情報やサービスの最新情報を得て、更なる連携を深める姿勢で関わりを持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない為は何をどうすべきか、疑問があればスタッフ間で話し合いをして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは職員間で入居者への関わり方について相談し合うとともに、グループホーム連絡協議会や広域市町村圏組合主催の研修に参加しながら身体拘束についての理解を深めている。日常的に実際の支援が虐待行為に該当しないか職員間で確認し、指針の理解や3原則など具体的行為の知見の共有を図りながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理解を深める為研修等に参加している。虐待をしない事を当たり前に考え、その為にはどうすればいいのかをスタッフ間で話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、制度の理解は出来ているが、実際に活用したことがない。 機会があれば活用したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や必要時利用者や家族等の思いを引き出せるよう、会話を工夫している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関の所に意見箱を設けていつでも意見や要望を受け付けられるようしている 面会時にも家族の意見を引き出せるよう機会を設けている	ホームは毎月のホーム便りで入居者の暮らしぶりを伝えるとともに、面会時にも日頃の状況を伝えながら信頼関係の構築に繋げている。管理者は家族の意向を尊重しながら率直な意見交換を行い、家族とともにその方の暮らしを支える姿勢で取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議で、職員の意見を聞く機会を設け、反映させている	管理者や職員は支援や業務についてこまめに話し合い、業務改善に努めている。今回、新入職員業務マニュアル作成にあたり、全職員で業務の現状や手順などを明文化している。管理者は家族がホームに何を求めているのか常に問い掛けながら、職員とともにより良い職場環境となるよう取り組んでいる。	現在、話し合いにより職員の支援や業務に対する意識統一が図られているが、経験や力量によって課題の捉え方に差異が生じている。入居者への支援や業務内容を更に良くしていくためにも、例えば具体的な目標設定や評価指標を可視化し課題意識を明確にするなど、今後の取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自がやる気を持って働けるよう環境や労働条件など配慮をもらっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昼間の外部研修は日勤扱いで参加してもらっている。又、資格取得を援助するシステムがある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は施設長会議を通じて同業者の意見交換が出来ている。又、風船バレー大会の打ち上げにも参加し、交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期は、本人に寄り添い困っている事や不安な事を受け止め、安心へつなげるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅でどんな困り事があったのか、又、施設でどんな対応が出来ているのか話をし、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、一番の困り事が何なのかを考え、他のサービスはどうか検討しながら対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にできる事を支援する事でありがとうやねぎらいの言葉を忘れない様にしている。そうする事で共に暮らす者同士の関係を築くようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	困り事が発生したりすると、家族に相談し対応方法を検討している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に来てもらったり、出掛けたりして良い関係が途切れないようにしている	職員は入居者が自宅で生活していた時の関係性を普通の仕草や言葉から理解するよう努め、それぞれの暮らし方に合わせて支援している。また、本人や家族と関わりを深めながらその方を知り、これまでその方が大事にしてきた関係性も大事にしながら、社会との繋がりが途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいく様に、職員が間に入って支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族の相談に応じたり、フォローしたりして、支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を頭に入れ本人の気持ちに寄り添うことで希望や意向の把握に努めている	職員は入居者の些細な言葉にも耳を傾け、その方がこれまで大事にしてきた生活に着目しながら思いに添った支援に努めている。現在入居者の重度化に伴い意思疎通が困難な方も増えているが、その方が発する言葉や家族の話に耳を傾け、その方らしい暮らしの実現に向け取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅支援事業所からの情報や、家族からの情報を得て、経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日を自宅等でどう過ごされていたのか、何がどこまでできるのか、動きや仕草がどうなのか把握して対応が出来るよう努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や担当者会議、申し送り等を活用し、現状に合わせた計画を作成している	担当職員を中心に家族の介護に対する意向を汲み取り、本人の心身の状況を考慮した無理のない介護計画を作成している。職員はその方にとってのより良い暮らしが何かを家族へ問い掛け、その方が発する言葉や仕草をもとに職員間で話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと連動した記録が出来て、モニタリングに生かせるよう工夫している。 職員間の連絡ノートも活用し、情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誰もいない自宅へ草取りに行きたいと言われれば、一緒に草取りに出かけたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人を支える地域資源は何かを考え、祭りやイベントなどに出かけ楽しむ事が出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を踏まえ、かかりつけ医を選択している。受診時は職員が同行し、かかりつけ医と連携が保てるよう支援している	入居前のかかりつけ医への継続受診を基本としているが、病状や体調が安定していれば家族相談のもとホーム協力医へ変更し対応するケースもある。職員は入居者の体調変化に留意し、内服薬の調整や状態を主治医へ報告しながら入居者の体調管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師が居るので、常に情報交換ができ、適切な受信や看護を受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中に病棟へ出向き、状態把握に努めながら、関係づくりも出来る様に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族と話し合いを行い、希望に沿えるよう努めている	家族の意向として病院での看取りを望む場合が多いため現在ホームでの看取りは行っていないが、入居者や家族の意向に沿えるよう昨年度は看取りに対する研修の機会を設け、体制整備に取り組んだ。ホームからの住み替えや家族への精神面でのサポートができるよう、柔軟な対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昼夜問わず施設の看護師と連絡を取り合い対応出来る様にしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災や地震を想定して、避難訓練を2回/年実施している。地域の方や入居者の家族にも緊急連絡網に入ってもらっている	ホームは防火管理者を中心に防災への意識が高く、火災及び風水害に対する訓練を月1回行いながら職員の防災意識を高めている。事業所内の安全点検や通報訓練を含む訓練を定期的に行うことで、生活の中の防災という意識が全職員に定着し、訓練の目的や現状を確認するきっかけとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけない様言葉を考えながら対応している	ホームでは不適切ケアについて職員の学びの機会を設け、入居者への関わり方について互いに注意し合える環境を作りながら、入居者の尊厳を大事にした支援に努めている。管理者は職員と入居者の言動や表情の変化に注意を払い、状況によって支援の交代や適度な距離感を保つことで感情のコントロールができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に応じて対応し、自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の1日の流れはあるが、利用者のペースに合わせ、希望に沿えるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ出かけたり、馴染みの理髪店から出張してもらったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に作ることは難しいが、野菜の下ごしらえ等を一緒にしている	ホームは手作りの食事の提供を基本としており、調理専門の職員によって彩りよく盛り付けがなされている。入居者の身体機能に応じて器の大きさや重量感を加減し、入居者が負担なく自力摂取できるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶が飲めなければポカリやジュース、おかずが噛めなければきざみ、小きざみと状態に合わせた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや口腔ケアを一人ひとりの状態に合わせて実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用しながら、時間をみてトイレ誘導をしている。オムツや尿とりパットの使用枚数が減らせるよう支援している	入居者の重度化に伴い排泄で介助を必要とする場面が多くあるが、職員は本人の羞恥心への配慮や排泄状況を確認しながら、トイレで排泄することができるよう努めている。職員は入居者一人ひとりの排泄量に応じた尿取りパットの大きさを検討し、快適に過ごせるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、野菜・乳製品を活用して便秘の予防に対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番に入浴したい人は、一番にと考えて対応している。又、バスクリンやゆず等を使って入浴が楽しめるよう工夫している	週2、3回の入浴を基本としており、入居者の状態に応じて入浴日を調整し、無理なく入浴できるよう柔軟に対応している。職員は入居者に寛いで入浴してもらえよう、一人ひとりの好みに合わせた方法を確認しながらゆっくりと入浴を楽しめるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を考えながら、午前中は起きて、午後からは暫く休憩してもらっている。又、昼間活動してもらう事で安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の処方を目の届く所においていつでも見られるようにしている。又、看護師と連携して、症状の変化を早めにつかめるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出が好きな人は外出し、仕事が好きな人は出来る仕事をしてもらう様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外で昼食をしたり、弁当を持って出かけたりしている。風船パレード大会に1/年に参加している。又、家族の同行もあっている	現在、心身の状況から外出が困難となっている入居者も多いが、畑や庭先の手入れなど職員と行き、日常的に外気浴を楽しんでいる。職員は入居者と外部との繋がりが途切れないよう月2回の行事のほかに、買物や書類提出で外出する際に声掛けして一緒に外出し、気分転換が図れるよう取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使える人は、お金をもって初市へ出かけたり、スーパーへ行って好きな物を買ったりできるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用される入所者が居り、充電が切れていないか確認したり、手紙が来ると代読したり、代筆して返事を出したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、清潔の保持に努めている。季節に応じた貼り絵や、ひまわり・七夕・ひな祭り・こいのぼり等を活用している	ホームは職員の手入れによって清潔が保たれ、急な変化で入居者が体調を崩さないよう室温や採光に配慮しながら心地良い空間づくりに努めている。共用スペースは車椅子も安全に移動できるような空間が確保され、廊下や玄関先にはホームのお知らせや作品など明るい色合いの物が取り入れられ、温かみのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人ひとりが自分の居場所を持ち合わせている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れたものや、好む物を持ち込んでもらっている。それらを活かして工夫している	管理者は、「本人が大切にしてきた物」の持ち込みを入居時に家族へ依頼し、入居後も入居前の暮らしが継続できるよう配慮している。室内には使い慣れた手回り品や一人ひとりの動線に配慮した家具の設置がなされ、その方らしい生活が継続できるよう取り組んでいることが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手引き歩行や車椅子の自走など、出来る事をしてもらっている。又、字は読めるが自分の部屋を忘れる人は、入口に貼り紙をして〇〇さんの部屋と書いたりし工夫している		